

議第3号議案

75歳以上の医療費窓口負担2割の中止を求める意見書

75歳以上の医療費窓口負担2割の中止を求める意見書を、ふじみ野市議会会議規則第14条第1項の規定により提出します。

令和3年3月12日

提出者 ふじみ野市議会議員

新井光男

賛成者 ふじみ野市議会議員

伊藤初美

足立志津子

床井紀範

塚越洋一

ふじみ野市議会

議長 小林憲人様

## 75歳以上の医療費窓口負担2割の中止を求める意見書

政府は、2020年12月15日の閣議で75歳以上の医療費窓口負担について、課税所得が28万円以上かつ年収200万円以上(単身世帯の場合)の約370万人を1割から2割に引き上げることを決めました。

今回の政府方針について75歳以上の後期高齢者のうち、一定の所得がある人を対象に医療費の窓口負担を1割から2割に引き上げることに対する世論が広がっています。

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、受診控えによる疾病・心身の状態悪化も多数報告されています。新型コロナウイルス感染者で重症化する割合が高いのが高齢者であり、さらに、高齢者ほど高血圧、糖尿病などの基礎疾患を抱えています。窓口負担の引き上げは高齢者の早期治療の機会を妨げることになります。

年収に対する窓口負担割合で見ると、75歳以上は40～50代の2～6倍近い負担をしているのが実態です。75歳以上は収入が少ないのに、年齢が進むにつれて複数の診療科や医療機関を受診せざるを得ず回数も増えるためです。

75歳以上の医療費窓口2割負担について、日本医師会などから「さらなる受診控えを生じさせかねない政策をとり、高齢者に追い打ちをかけるべきでない」との批判が出ています。

新型コロナウイルスから高齢者をはじめ国民の命と健康を守る体制の強化がなによりも急がれる時に、それに逆行する窓口負担増はやめるべきです。

よって、政府においては75歳以上の医療費窓口2割負担の中止を求めるものです。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和 年 月 日

埼玉県ふじみ野市議会

提出先

内閣総理大臣

財務大臣

厚生労働大臣